令和６年度　海外派遣研究員研究報告書

令和６年１０月８日

日本大学理事長　　殿
日本大学学長　　殿

所　　属　国際関係学部（国際関係研究所）
資格・氏名　教授・筧　正治

■本報告書の内容を公表することは，了承しております。
□本報告書の内容を公表することは，差し控えください。
※いずれかにチェックし（■）提出すること

令和６年度海外派遣研究員（中期）の研究実績を，下記のとおり報告いたします。

記

１　区　　分　　中期

２　研 究 課 題

海外在留邦人（永住者）の生活満足度についての意識調査

３　派 遣 期 間　　西暦　２０２４年4月1日　～　２０２４年9月１０日

４　派　遣　先　　タイ国，フィリピン，ベトナム

５　研 究 目 的

私の研究課題は社会保険の縮小や増税などで困難になっていく日本での生活の一部、またはすべてを海外で代替できるか調査することである。今後予想されるさらなる円安と厳しくなる財政状況、極端な少子高齢化を鑑みると日本での尊厳のある生活は困難になっていくものと思われる。そこで当該研究では永住や長期滞在に適した場所の探索に焦点を当てた。物価の高い欧米での生活は特別なお金持ち以外の人にとっては絵に描いた餅であろう。そこで日本から距離も近くてなじみのあるフィリピンやタイなどの東南アジアの国々で長期滞在在留邦人を対象としたインタビュー調査およびアンケート調査を実施した。調査の結果、日本より物質的、精神的に豊かに過ごせるならば将来が不安な日本にいるよりも望ましい生活を送れることになる。調査の結果が今後海外生活を送ろうとする人たちの海外生活選択の一助となることが当該研究の目的である。

6　研 究 概 要

① 研究の方法

タイ（インタビュー調査およびアンケート調査）

インタビュー場所：タイ・アサンプション大学、和食レストラン【魚むら】および【ＥＮ】（対象３名）、アンケート調査場所：和食レストラン【魚むら】および【ＥＮ】（対象２７名）

フィリピン（インタビュー調査およりアンケート調査）

インタビュー場所：セブ・サンカルロス大学、NINE STARS PHILIPPINES CORP 本社オフィス（２名）、アンケート調査場所：NINE STAES PHILIPPINES CORP 傘下の和食レストラン（松乃屋マンダウエ支店、しゃぶしゃぶ松乃屋、松乃屋 MeRise 店、松乃屋 SM シーサイド店など）（対象２２名）

② 渡航先での活動内容

タイではバンコク・アサンプション大学の元教員 Mika Tanasarnsanee 氏にインタビュー調査を行った。またインタビュー調査をもとに５０通のアンケート用紙の送付準備が完了していた。アンケート調査は日本人会からご紹介いただいた日本食料理屋【魚むら】および【ＥＮ】に協力を仰ぎアンケート調査を実施した。しかし帰国時点でいまだ未回収部分が存在する。

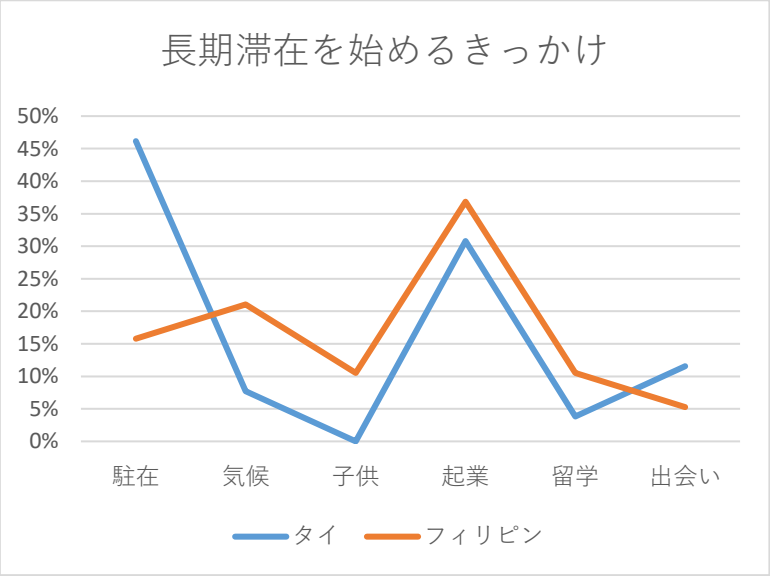
ベトナムでの調査依頼は同じ共産党政権の中国共産党政権の言論統制の影響からインタビュー調査やアンケート調査には慎重にならざるを得ないという回答を得るに至り実施は不可能と判断するに至った。

フィリピンでの調査はセブ最大の和食レストランチェーン NINE STARS PHILIPPINES CORP のマネジャーからセブ在住の学生、企業派遣駐在員以外の長期日本人滞在者または永住者のご紹介をいただきインタビュー調査およびアンケート調査を行った。

7　研究結果・成果

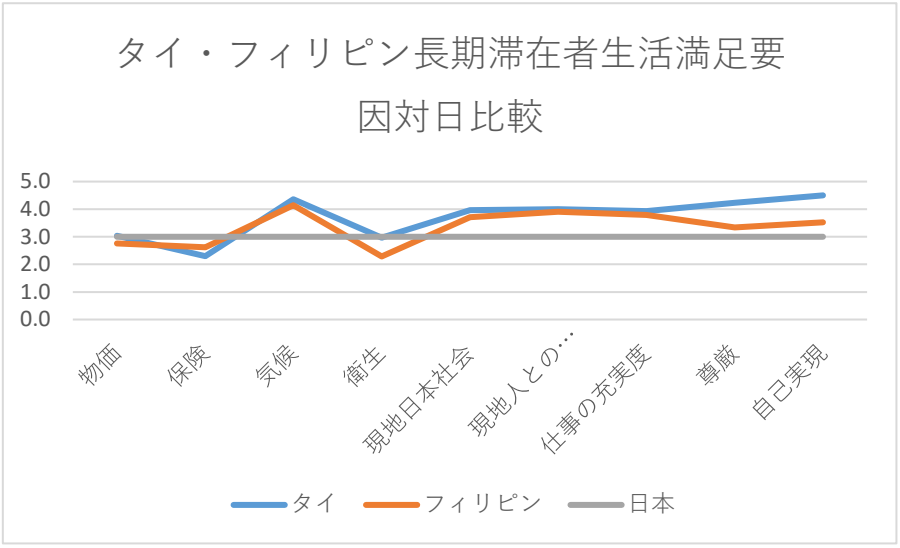
タイでは合計 27 名（内訳は男子 16 名、女子 10 名、不詳 1 名）からアンケート結果を回収した。セブでは合計２２名（内訳は男子１５名、女子６名）に質問票を用いインタビュー調査およびアンケート調査を行った。調査項目に関しては【質問１】長期滞在を決めた理由について、【質問２】日本との生活に比較した生活の優位性について９項目を５段階で評価してもらった。（満足５，やや満足４、どちらともいえない３，やや不満２，不満１）である。【質問３】将来も居住国に住み続けるかについて【質問４】居住国に住む理由について【質問５】期待していた海外滞在と異なるものとなった場合の理由【質問６】老後の生活の当該国人への生活の依拠についてである。

【質問１】の長期滞在をはじめるきっかけとしてタイでは「駐在」が多いのに対しフィリピンは「起業」が多い、タイは米国、中国に次ぐ日本企業の製造拠点であるため駐在をきっかけにタイに居住するようになった者が多い。フィリピン（セブ）はＢＰＯビジネス、リゾート、英語教育の中心など複数の顔を持つため、語学学校の経営者や観光客・留学生相手の日本食レストランなどの起業が多い。また子弟を小さいころから英語に慣れさせるための子育て目的の長期滞在者なども散見された。

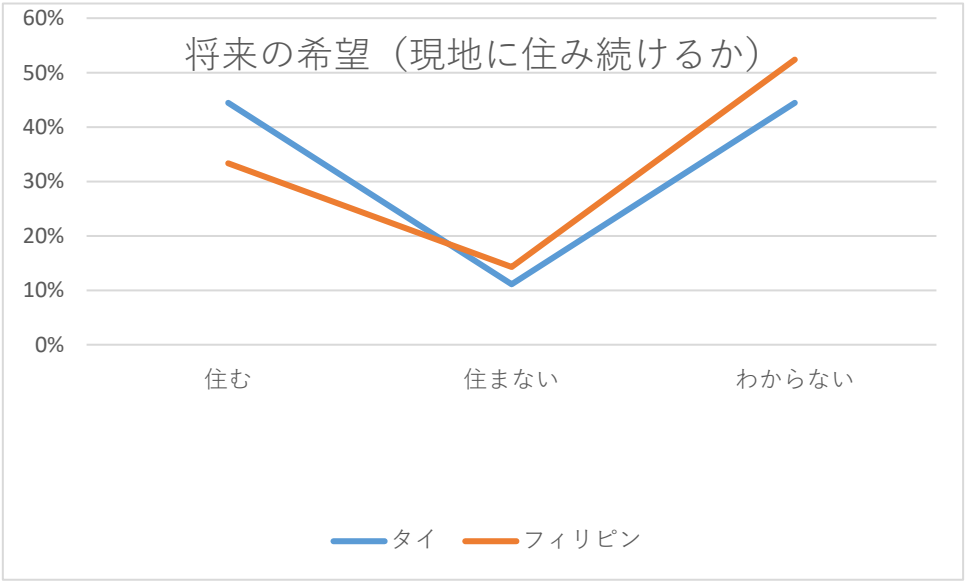


【質問２】については９項目を準備した。１．物価について、２．保険制度について、３．気候について、４．衛生面について、５．現地日本人社会について、６．現地人との交流について、７．仕事の充実度について、８．尊厳欲求の充足について、９．自己実現欲求の充足についてである。　結果については平均点を出し３ポイントを超えれば日本より高いレベルである。１物価について日本に比べ高いと感じている人が多く満足度は日本より低い。「思ったより高い」、「円安でどんどん上昇」、「日本が安すぎ」などのコメントがフィリピンでもタイでも見られた。2.保険についても日本より満足度が低い。「もっと外国人が入りやすい保険が欲しい」、「高いので入るのをためらっている」などのコメントがあった。3.気候については両国とも日本より満足度が高い。「熱いけど住みやすい」などの声がある一方「「雨季はきつい」、「異常気象が増えた」などの声もある。4.衛生については日本より満足度が低い。「外出時のトイレが困る」、「いまだに路上でトイレをする人がいる」などのコメントがあった。5.現地日本社会については日本にいるより満足度が高い。「日本以上にいろんな人に出会える」との声がある一方「たまにいざこざを聞く」といった声もある。6.現地人との交流については満足度が高い。フィリピンでは「優しい心を持つものが多い」など良いコメントが目立ったが、タイでは「本当に親しくなれるものがいない」などの声もあった。7.仕事の充実は両国とも満足度は高い。「自由に働ける」、「大きな仕事を任せてもらえる」などの声が目立った。8.尊厳の欲求の充足に関しては両国とも日本より高い。フィリピンでは「長生きし

ている人へのリスペクトを感じる」、「フレンドリーだが距離感が大切」などの声があった。9. 自己実現の欲求に対しては「子育てヤヤの存在」、「日本よりワクワクする」などの声がフィリピン滞在者から上がった。



【質問３】このまま現地に住み続けるかの問いに対してはタイが「わからない」と「住む」が同位、フィリピンが「わからない」が一番多く、その次が「住む」であった。「住まない」との選択肢はいずれも 10%台にとどまった。



〔７　研究結果・成果（つづき）〕

【質問４】当該国に住む理由についてはタイ・フィリピン両国において「仕事」が多いが、タイのほうがその割合が大きい。2 位はフィリピンが「子育て」であるのに対し、タイは「子育て」はゼロであった。英語圏のセブで子育て者が多いのは意外であった。タイでは日本での地震を恐れて避難している世帯もあることがわかった。

居住理由	フィリピン	タイ
仕事	33%	52%
子育て	29%	0%
居心地（気候含む）	13%	28%
日本の魅力減	8%	4%
パートナー	4%	8%
日本と近接	4%	0%
海が好き	4%	0%
物価	4%	0%
ペット		4%
地震		4%

【質問５】滞在が期待していたものと異なるのは両国とも物価が高いことである。物価に関しては予想に反して日本より安くないとの声が多かった。特に電気代が高い。フィリピンでは慣習に関することが上げられ時間にルーズ、計画通りにいかないなど仕事サイドの問題への言及が目立った。

期待内容と異なる	フィリピン	期待内容と異なる	タイ
物価	50%	物価	50%
慣習	33%	貯金ができない	25%
交通	17%	儲からない	25%

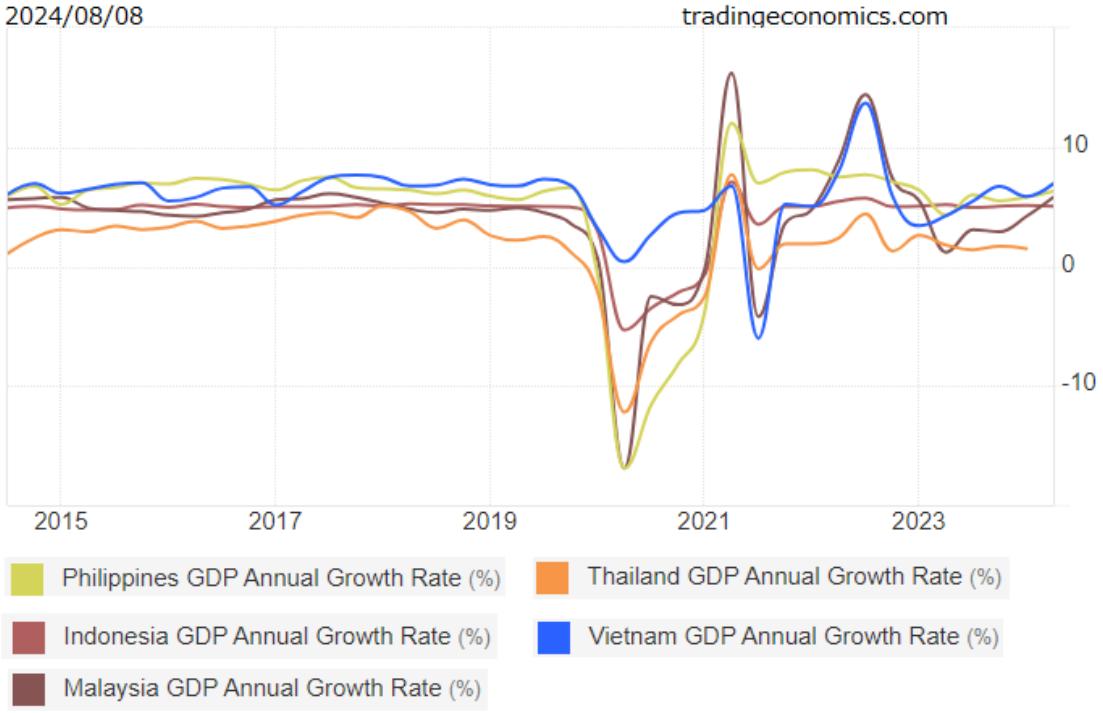
【質問６】老後の生活の現地人への依拠についてはフィリピンでは「わからない」より「可能」が上回り、タイでは「可能」より「わからない」が上回った。タイでは「お金があれば可能」、「文化が違うからむつかしい」、「そこまで信用できない」などの声があった。

老後の生活の現地人への依拠		
	フィリピン	タイ
可能	45%	33%
不可能	20%	22%
わからない	35%	44%

【ベトナムでの現地調査の内容】

ベトナムではアンケート調査、インタビュー調査が行えなくなったため、データ分析と街角景気調査を行った。

アセアン５諸国の１０年間の経済成長（ＧＤＰ年率）データ：Trading Economics より編集



上図はアセアン５の 10 年間の四半期ごとのＧＤＰの成長率を示したものである。フィリピンとベトナムが高い成長率を示してきたがタイは 2023 年の第４四半期にはマイナス成長に陥り低成長時代を迎えた。さて高度成長を続けるフィリピンとベトナムだが、その発展形態は異なる。フィリピンが英語を生かした環境負荷の少ないデータセンターなどの BPO ビジネスが中心なのに対しベトナムは中国同様先進国の下請け工場経済として機能する。ベトナムは社会主義市場経済であり、市場経済が共産党支配を脅かすほど発展してくるとブレーキをかけるといった中国と同様の悪循環に陥る可能性が高い。このような事前調査をふまえ街角ウオッチング調査を行った。対象はベトナム経済の中心地ホーチミン市の中心街である。筆者が驚いたことに 20 年前に行ったホーチミンと２０２４年に見た街並みは同じ街と思えないほど様変わりしていた。古い町並みが取り壊されほとんどの建物がどこの国でも見られる新建材を用いた建物になっていた。日本が神武・岩戸景気（1956～1961）を経て戦争の爪痕を消し去ったのと同じような変化が起こったのである。パークハイアットホテルの高級飲食店を覗いてみると、共産党員でビジネスを展開している家庭の子弟とおぼしき若者で繁盛していた。ベトナムはチャイナリスクの回避先としての多くの企業がビジネスを中国からベトナムに移管しているがタイのようにやがては中進国の罠にはまる。そのときは共産党支配への反体制運動が起き混沌とした世界に逆戻りする可能性が高い。その意味で日本と価値観を共通するタイやフィリピンのほうが長期滞在にふさわしい選択であるといえよう。

【まとめ】

日本より満足度が劣る項目として物価、保険、衛生が挙げられる。物価は日本より高いものが多く、保険も高額であり加入するか迷う者が多い。また衛生に関して

はインフラが脆弱で下水に紙を流せないことや雨季の冠水などへの不満が多い。逆に満足度が高いものには気候、現地日本人社会、現地人との交流、仕事の充実、尊厳欲求の充足、自己実現欲求の充足などであった。フィリピン人との交流については日本人との付き合いよりも得点が高く、明るくフレンドリーで思いやりのあるフィリピン人との交流に満足している姿も現れた。ハーツバークのいう衛生要因（生理的欲求・安定安全の欲求・社会的欲求）よりも動機付け要因（仕事の充実、尊厳の欲求、自己実現欲求）で充足度が高かった。しかしハーズバーグは「動機付け要因のスコアが高くても衛生要因の充足度が低ければ全体の満足度は低下する」と指摘する。今後継続すると予想される物価高や円安傾向などを考慮すると、経済的な理由による長期滞在は難しくなるだろう。しかし社会のしがらみや上司などに管理されず日本より自由にチャレンジできることに多くの長期滞在者が意欲を感じているように、やりたいことがしっかり決まっていて経済的な裏付けがある人には長期滞在や永住は豊かな選択肢となる可能性が高い。

今後の課題

タイとフィリピン（セブ地域）での研究を行うにあたって直面した困難はサンプル数自体が少ないということであった。留学生、語学学校生、日本企業の駐在員を調査対象者から除き、起業目的や生活自体を楽しむ人を対象にしたがコロナ禍で帰国を余儀なくされた人が多数いたためである。また Tanasarnsanee 氏の帰国によりターゲット層のインタビュー調査やアンケート調査が不十分になった点も予想外であった。今後はチェンマイなどリタイア層が多く住むエリアでのインタビュー調査・アンケート調査を行いたい。

以　上